

コミュニティソーシャルワークをイメージする ための参考事例【包括的な相談支援体制 **編**】

岡部 正文（東京都・荒川区）



相談支援従事者の人材育成及び相談支援専門員とピアサポート専門員の協働支援モデルの普及と独立型相談支援事業所の促進に尽力しています。

- 平成26年～：一般社団法人 ソラティオ 代表理事
- 平成27年～：相談支援センターあらかわ 所長
- 平成28年～：荒川区精神障害者相談支援事業所 所長
- 令和 2年～：荒川区基幹相談支援センター 所長

厚生労働省 相談支援従事者指導者養成研修（コア検討委員）

厚生労働省 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業（広域アドバイザー）

特定非営利活動法人 日本相談支援専門員協会（理事）

一般社団法人 全国地域で暮らそうネットワーク（理事）

福祉分野における各種ファシリテーション研修（講師）



東京都・荒川区の相談支援体制【障害福祉】

特定相談支援事業所：10ヶ所

● 印：地域包括支援センター



3 荒川区障害者基幹相談支援センター <第3層>

地域における相談支援体制の整備や社会資源の開発など

2 荒川区精神障害者相談支援事業所コンパス <第2層>

一般的な相談支援

1 相談支援センターあらかわ <第1層>

基本相談支援を基盤とした計画相談支援

計画相談支援 地域相談支援 障害児相談支援 自立生活援助

東京都精神障害者地域移行促進事業

計画：550名前後
定着：35名前後

荒川区人口
216,349人

高齢化率
23.5%

手帳取得者数
10,853人



障害者相談支援の今後に向けて（基幹Cの役割）

課題

相談支援の質の向上

目指すもの

持続可能な
地域生活支援



地域移行

高齢化

障害の重度化

医療的ケアの
必要な児者

自然災害

②
人財の
育成

①
体制の
整備

③
運営と経営

障害者の
尊厳の確保、
社会参加等

共生社会
の実現

基幹相談

支援セン
ター

基幹Cにおける主任相談支援専門員の活動 ★謙虚さ

相談の支援



オールケアマネで培ったネットワークを活かしてコーディネートを行い、事例を通じて相談支援体制の更なる強化を図る。

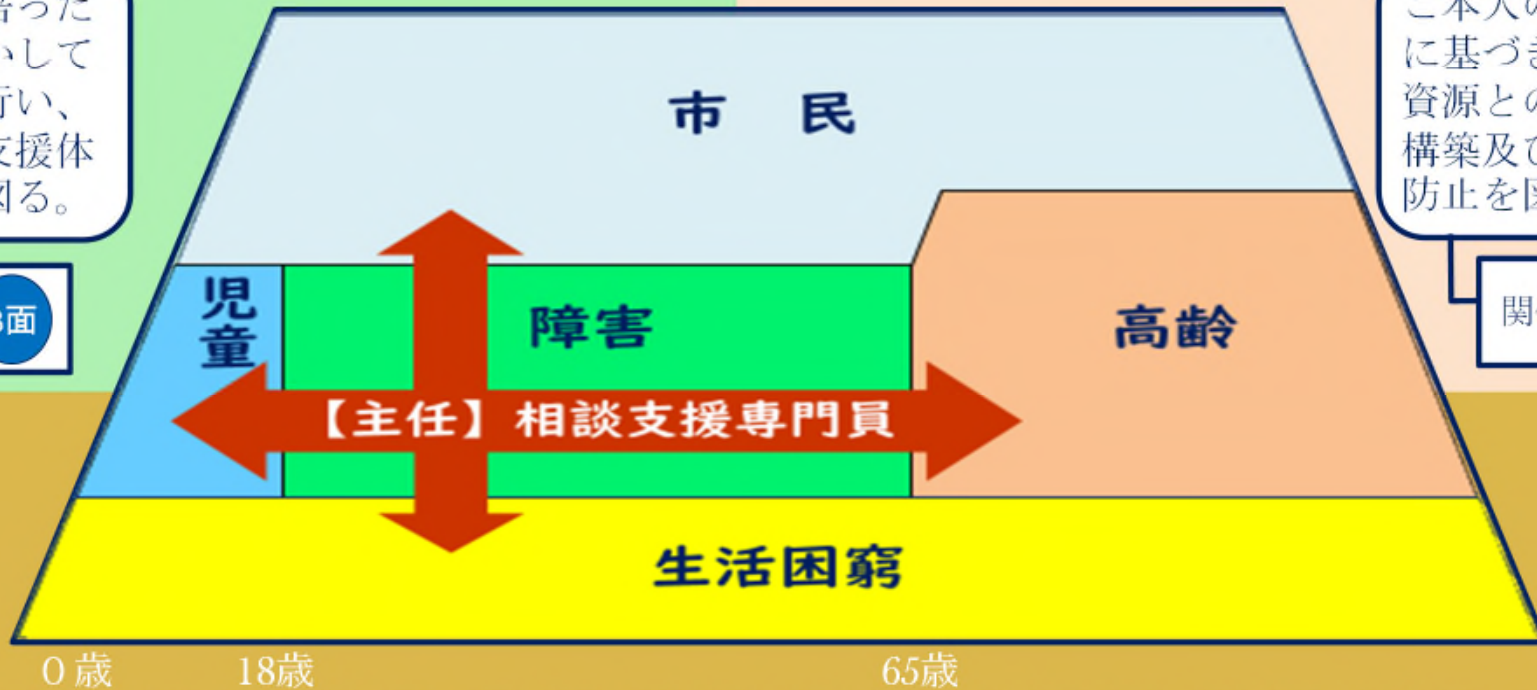
相談支援専門員の A面 B面

参加の支援



ご本人の興味・関心等に基づき、様々な社会資源とのつながりの再構築及び社会的孤立の防止を図る。

関係者の A面 B面



重層的支援体制整備

地域生活支援拠点

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム

居住支援

医療的ケア

災害対策

ご当地ならではの地域づくり(文化醸成)

複合的な課題を抱える世帯への支援事例【相談の支援】

家族構成

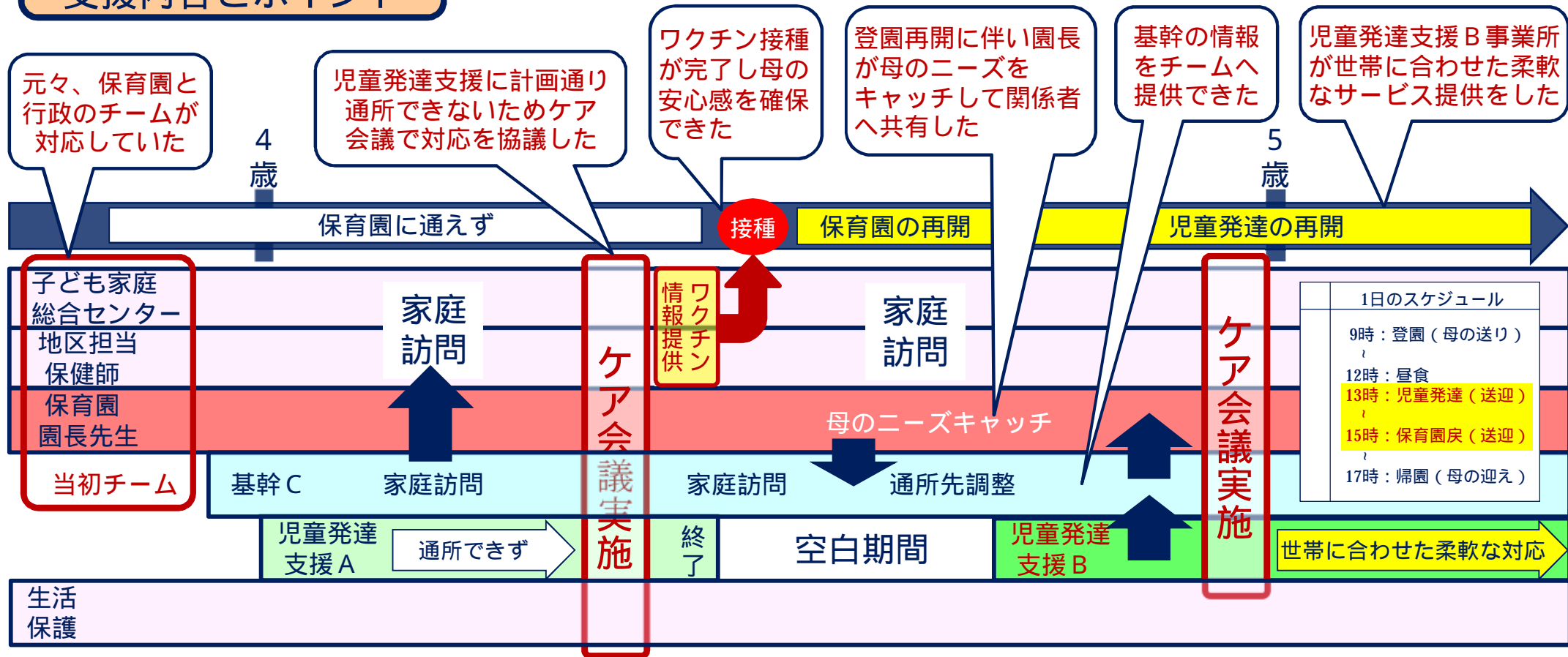


支援のきっかけ

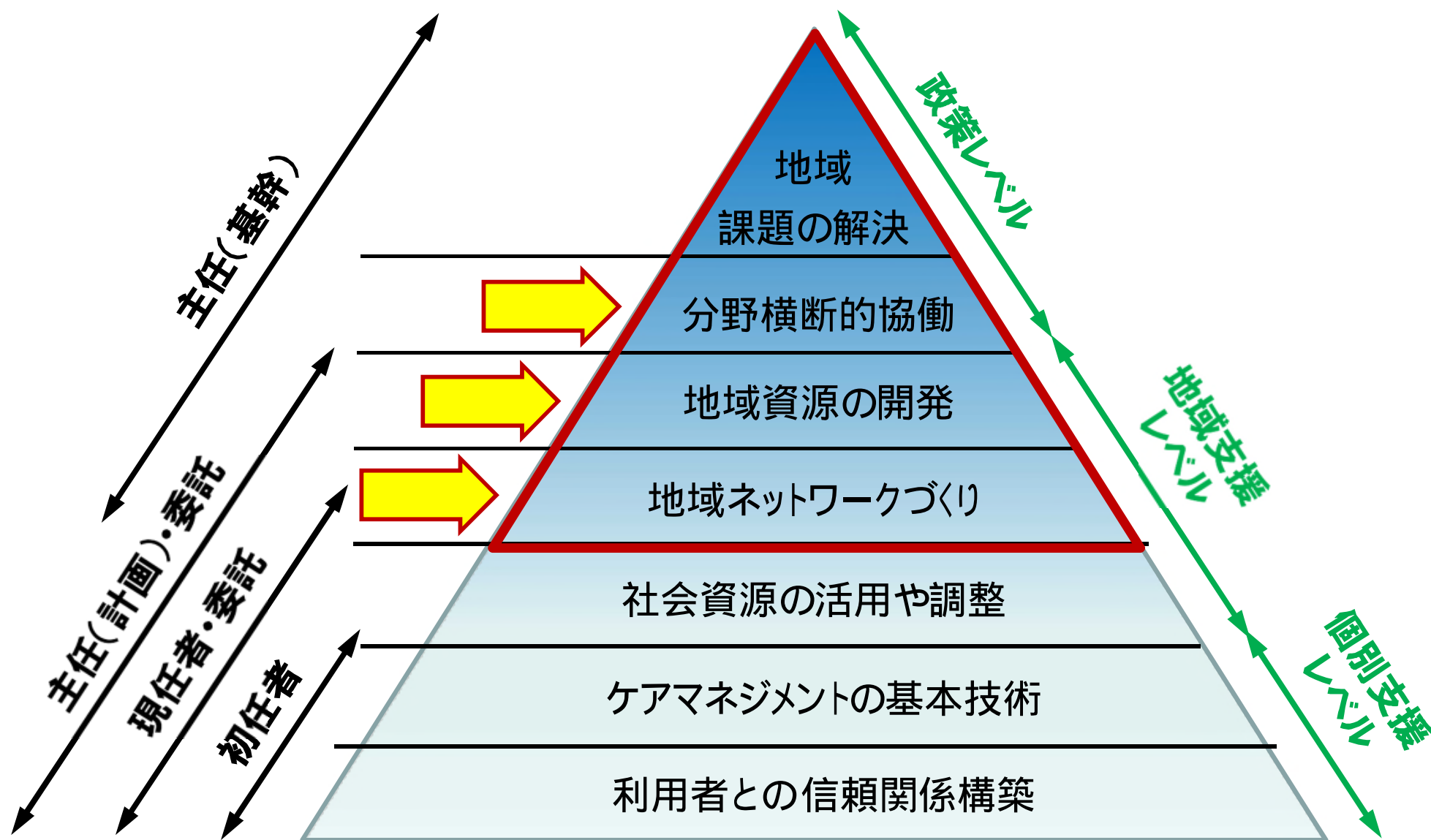
- 区役所から「養育環境の課題」と「発達課題（言語等）」が重複している事例について障害児支援利用援助の依頼を基幹Cとして受け付ける。
- 発達課題に対しては、児童発達支援で療育を受けることになっていた。
- 基幹Cが介入する前から、【子ども家庭総合センター】【保健師】【保育園】の3者がチームで支援していた。

小学校入学を見据えた支援方針

支援内容とポイント

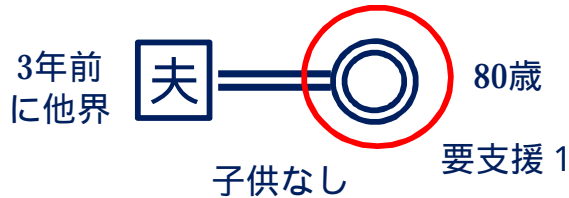


2-(1)-① 相談支援のレベルと地域づくり



複合的な課題を抱える方への支援事例【参加の支援】

家族構成



支援のきっかけ

- 同居の夫が3年前に他界した後、包括支援Cが定期的に見守り。
- 3ヶ月前に精神科を初診して知的障害（中等度）と診断された。
- 金銭管理ができず、文書や数字が理解できないので「文字を読めるようになりたい」と希望があり、包括支援センターから基幹相談支援センターに相談が寄せられた。



支援内容

< 支援開始 >

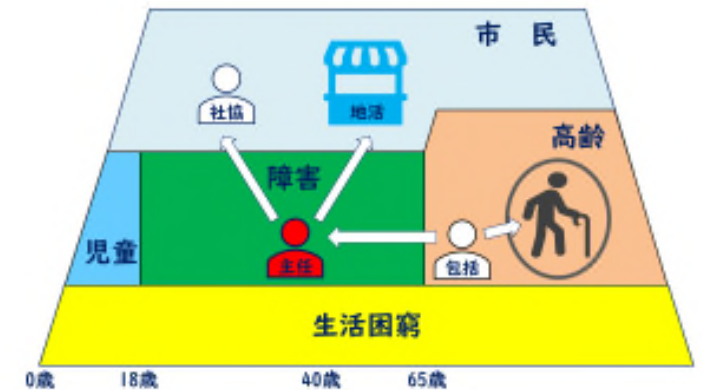
- 包括支援センターからは「療育手帳の取得方法を知りたい」と相談があったが、主任相談支援専門員がニーズの捉え直しを行った。

< ご本人が抱える多様な課題を整理 >

金銭管理	通帳が読めず、知人にお金を払って助言をもらっている。
地域の支え合い	町内に頼れる市民がいない。
社会参加	「まずは、文字を読めるようになりたいの！」と誘いを拒否。
他者交流	節約を優先し、知人が喫茶店に誘っても断っている。

< 多機関との連携による支援 >

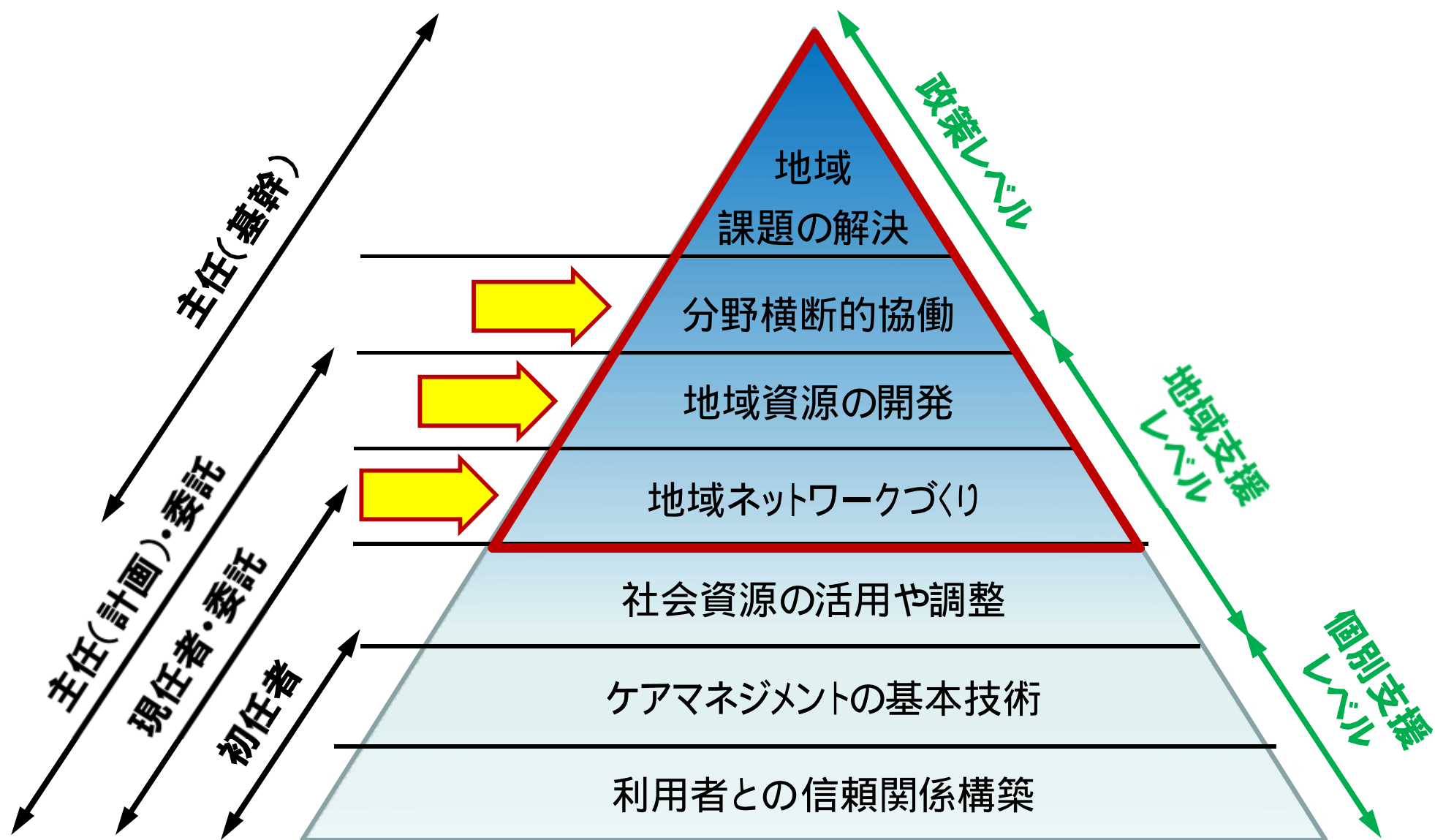
- 主任相談支援専門員はご本人の不安感と孤独感に着目し、関係機関（包括支援センター、保健師、社協、地活等）を招集して担当者会議実施。地域の情報が集まり、ご本人の強みを活かして地活（書道サークル）への参加と同じ町内に住む元社協職員のつながりを作ることとなる。



効果

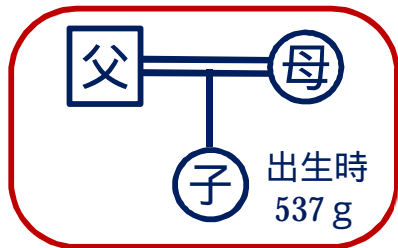
- 基幹の主任がコーディネートしてご本人の強み（書道）を生かした地活利用につながった。
- 元社協職員とのつながりもでき、信頼関係構築後は地域福祉権利擁護事業を提案していく予定。
- 関係機関の連携が促進された。

2-(1)-① 相談支援のレベルと地域づくり



医療的ケア児の支援事例【地域課題の解決】

家族構成



支援のきっかけ

- 超低出生体重児として令和3年6月に出生し、のちに呼吸器使用。
- 令和4年1月に退院することになり、障害者福祉課から退院1ヶ月前に支援要請あり。
- 急遽、入院先の大学病院のケア会議に参加し退院後の支援体制を医療関係者と共に構築していくことになる。

支援と地域課題

本人・家族の状況

早期連携の必要性

退院前カンファ

ヘルパー意向なし

退院（祖父母宅へ）

土日訪看希望

訪問看護C追加

荒川自宅生活開始

ヘルパー希望あり

入浴時補助

ヘルパー開始

ヘルパー追加希望

家族負担過重

大学病院（約7ヶ月）

祖父母宅（約1ヶ月半）

ご自宅

12月

1月

1/下旬

2月

3月上旬

3月中旬

4月

コーディネーターの動き

相談受付（障福）

退院前カンファ参加

退院先訪問

訪問看護A打合せ

訪問看護B打合せ

訪問看護日程調整

訪問看護C探し調整

各種手続きの煩雑さ（子どものそばから離れられない状況）
留守番看護の要件に非該当

ケア会議実施

自宅訪問

計画書作成

ヘルパー調整

土日のヘルパー調整

レスパイト検討中

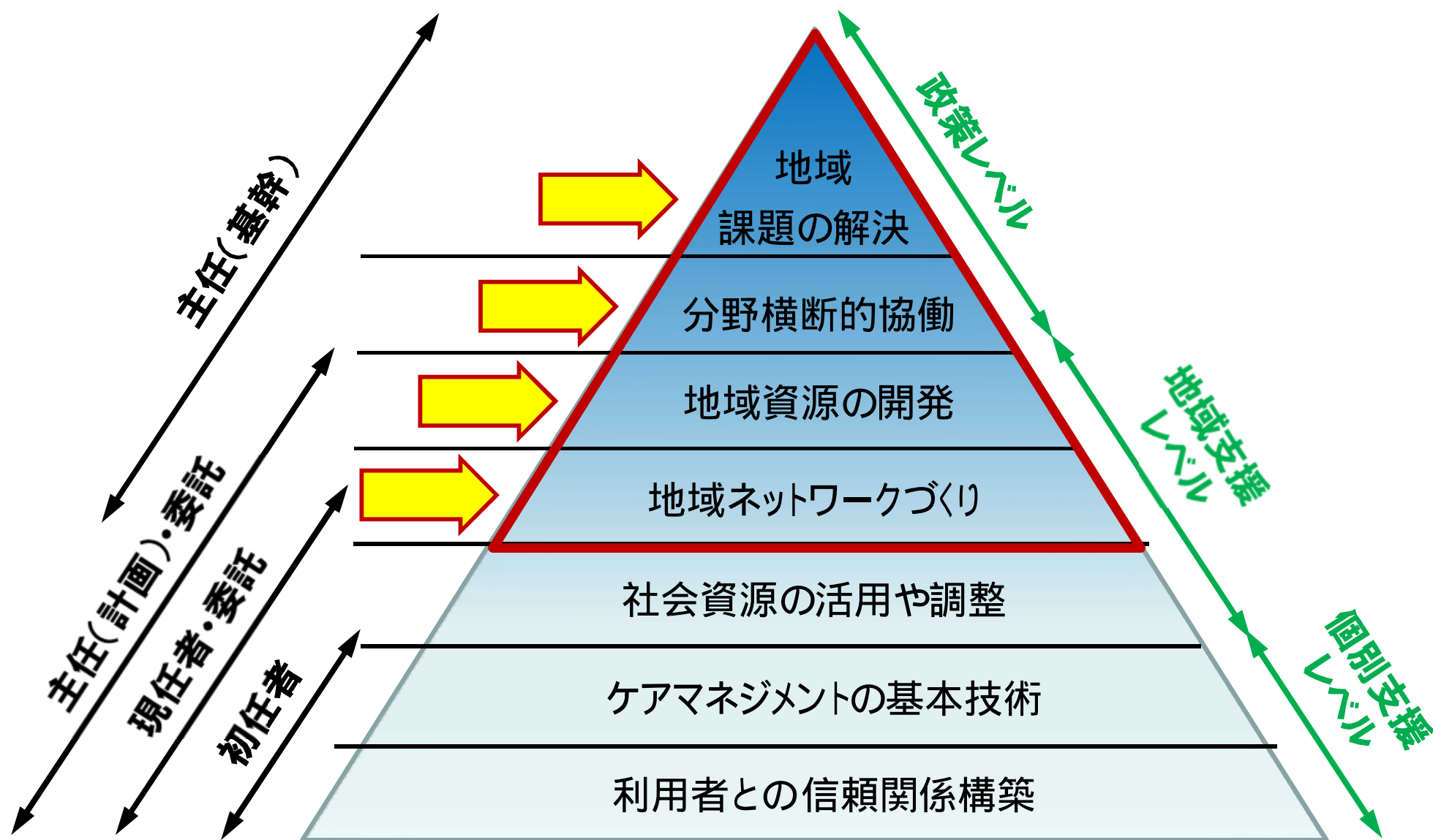
訪問診療
訪問看護
保健所
福祉課
と連携して
検討中

地域課題の改善提案

医療的ケア児等地域コーディネーター業務

相談支援専門員業務

2-(1)-① 相談支援のレベルと地域づくり



チーム支援
関係づくり

チーム支援
関係づくり

ミクロ的
活動



メゾ的
活動



マクロ的
活動



①個を地域で支える援助
(サービスで支える)



個を支える地域をつくる援助
(インフォーマル資源で支える)



一体的(同時並行的)に実施

基幹センター・委託相談

特定相談支援事業所

- 1. 総合相談
- 2. 体制整備
- 3. 移行・定着
- 4. 権利擁護

- 1. 福祉サービス利用のための情報提供、相談
- 2. 社会資源の活用のための支援
- 3. 社会生活力を高めるための支援
- 4. ピアカウンセリング
- 5. 専門機関の紹介 等

基幹
センター

マクロ

主任者

制度・政策アプローチ

協働

委託
相談

メゾ

現任者

コミュニティアプローチ

ミクロ

委託
相談

初任者

個別のアプローチ

障害福祉サービスの利用なし

障害福祉サービスの利用あり



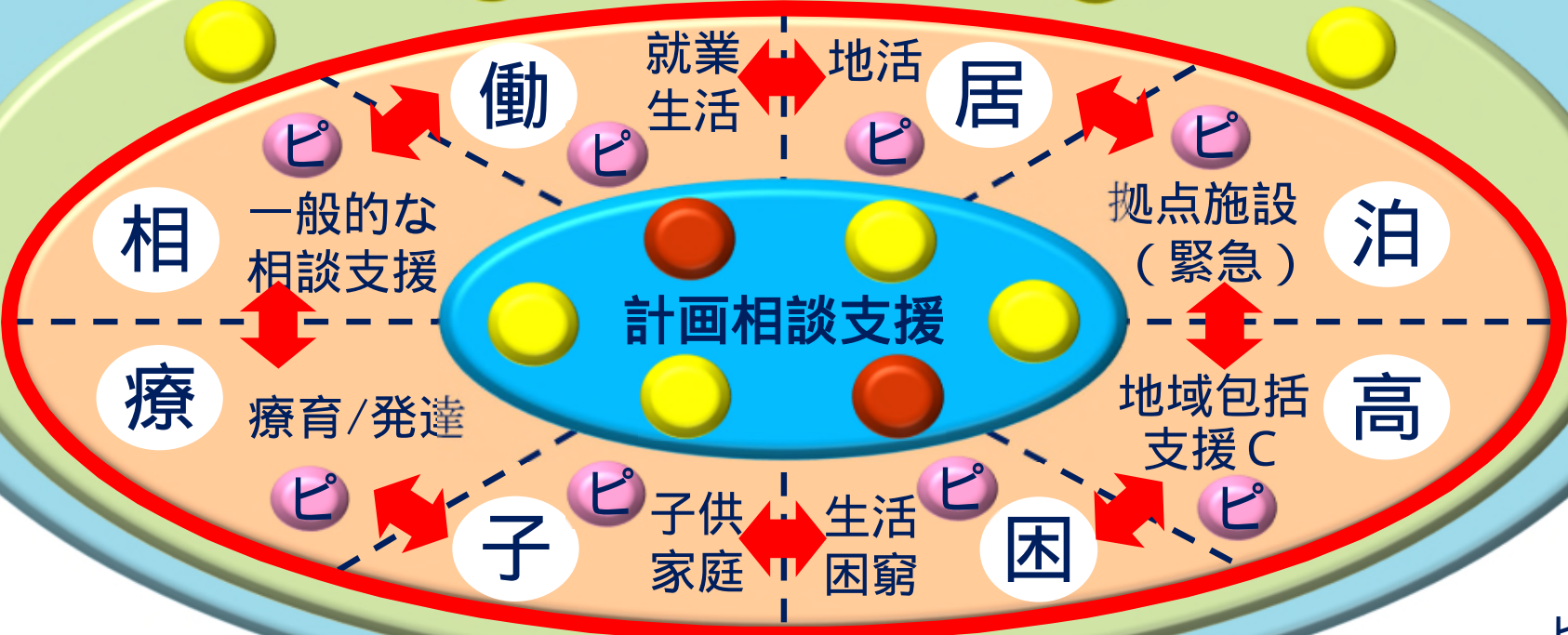
相談支援事業所



サービス提供事業所

全国

県内



ピ
ピアスタッフ
(親もあり)

連携できる体制を構築する役割



法律 (障害者基本法/障害者総合支援法等)

条約 (障害者の権利条約/子どもの権利条約等)

日本国憲法

基幹相談支援センターの必要な取組み（例）

理念：共生社会の実現

取組の流れ

